

高井伸夫著「高井式、一生使える勉強法 - 成長モードにスイッチする - 」

かんき出版 2009年10月5日刊を読む

自分流のメモ術を開発した人は強い

1. (1)前にも書きましたが、「詞は飛び、書は残る」という言葉があります。勉強する人が決して忘れてはいけない金言の部類に入る言葉です。
  - (2)たとえば人と話していて、「あ、いい言葉だな」「すごいアイデアだな」と思うことがあるはず。そういうとき、あなたはどうしますか。
  - (3)心に刻み込んで記憶の倉庫に……基本的にはそれでかまいませんが、問題はそれが本当に実行できるかどうかです。ほとんどの場合、ケロッと忘れてしまうものです。しかしその場でメモすれば、そういうことは起きません。
  - (4)「『それ、すごくいい言葉ですね。ちょっとメモさせてください』  
そう断ってメモをすればいい」
  - (5)自分の発言や言葉を評価されて、いやな顔をする人はまずいません。
  - (6)喜劇王チャップリンはパーティの席で、いい言葉に出会うと、  
「その言葉を使わせていただきます」  
と断って、映画で使ったそうです。  
チャップリンが自分でメモをしたか側近がしたかはわかりませんが、通常は、メモは自分でしなければなりません。
2. (1)そこで、いついかなる場所にあっても、メモのできる態勢だけは整えておかなければなりません。メモ術の基本は、非常に単純なことで、「メモしたい」と思ったとき、確実にできる態勢を整えておくことです。
  - (2)その態勢どうやってつくるか。手帳、メモ用紙と筆記用具をいつも持っていればいいのか？でもこれが案外難しい。持っていないときに限って「メモしたい」ことが出てきます。そういうとき、私はその場でメモを取る算段をします。

(3)たとえば、おそば屋さんで人と話をしている、「メモしたい」と思ったとします。あいにくメモ用紙を持っていない。そういうときは、手元の割り箸の袋でも、お勘定の伝票でも何でもいいから、とにかく書き留めます。

(4)筆記用具がなかったら、店の人に借りてでもメモを取る。要するにメモをすることに貪欲になることが、メモの習慣をつける一番のポイントです。

(5)几帳面な人は、私のこんなアバウトなやり方は我慢できないかもしれません。メモ専用の手帳を持つとか、メモ用紙を二十四時間携帯して……と思うでしょう。でも、それがないとメモしないという態度では、決してメモ魔にはなれません。

(6)私の場合はどんな紙片でもメモして持ち帰り、保管する。そうやってメモを溜めていきます。メモ術で大切なのは「メモをすること」。メモすれば、そのことから解放され、別のことに気持ちを向けられるからです。

3. (1)次に大切なのが「メモをどう活用するか」です。必要があるからメモをしたはずですから、活用しなければ意味がない。活用しやすい形で保存をして、適宜使えるシステムを開発する必要があります。

(2)その方法は、自分流でいいでしょう。ポイントは「検索できる」こと、それだけです。私流のやり方を詳しく知りたい人は、私が以前に書いたメモ術に関する本をお読みください。

(3)ここではポイントのみを記しておきます。

乱筆でメモした場合、新たに書き直すのは手間がムダだからしないほうがいい。メモを取るの是一次きりと決める。

メモのストックは、スキャンしてパソコン内に取り込むか、専用のノート、手帳、スクラップブックなどに貼ってもいい。とにかく検索可能な状態にしておくこと。

メモには情報の出所(媒体名、個人名)、メモをした日付、自分の感想などを書き込んでおく(あとで活用するときに非常に便利)。

保存方法はメモした順、つまり時系列を基本とする。

用済みのメモは捨てても保存しておいてもいい。勉強のためには、保存しておき、適宜、自分の書き込みを入れて充実させていく方法もある。

(4) メモは見た目が資料っぽくないので、軽く扱いがちですが、一つのメモが実際に、何度も役立つこともあります。「たかがメモ、されどメモ」という気持ちで、生涯取り続ける意気込みを持ったらいいいと思います。

(5) レオナルド・ダ・ヴィンチは、生涯に三万枚のメモを残したといわれています。あなたも、これに倣<sup>なら</sup>う気持ちで、メモをしてみてもいいでしょうか。

P199 ~ 202

#### [ コメント ]

仕事には教科書がない。仕事の教科書は、人から教えて頂いたことをメモをし続けて自分で作る。メモは繰り返して読み直し、身につけることが大事。

#### 御参考まで

これに加えて、メモしたことでこれぞと思うことは、他人にも教えてあげるとは素晴らしい。人にも喜ばれるし、教えているうちに自分の身にもつくからだ。これは経済同友会で林達夫さん(リントツさん)から教わったメモ活用の極意。

- 2009年9月23日 林明夫記 -